

小学校教師による小6 道徳「環境保全と生命尊重」の教材研究—1枚の写真を通して

## 樹木の生命のエネルギーを感じ取る！

作成：植田清宏（うえだ きよひろ／京都市立二の丸北小学校 教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）\*

語り：「このポプラの樹をじっと見つめてみよう。樹や周りの地面に耳を当ててみよう。どんな音が聞こえてくるかな？ 樹は、われわれにどんなメッセージを伝えようとしているかな？」

樹木と人間とのかかわりについて、みんなの五感を使って考えてみよう。

二の丸北小学校にある50本のカロリナポプラの樹は、「京都市立学校・名木百選」に選ばれた樹で、30年前に植樹されたものです。樹はどんな生命力や力強さを持っていますか？

われわれは、自然の恵みの中で生命をいただいて生きているのです。

われわれは移動することができるけれど、樹は、ひとたび根を生やし成長が始まると、その場所と与えられた条件の下で、ひたすら生きているのです。樹木は、人間にはとうてい及ばない生命力と力強さがあり、見つめていると限りない感動と畏敬の念がわいてきます。

自然の恵みの中で、今自分が生きていることの幸せを感じ、生命の神秘とかけがえのなさを感じながら、地球環境を壊さないように、一人ひとりが気を配っていききたいものです。」



▲校庭のポプラ

意図（植田）：「環境」とは、「主体となる生物を取り囲み、主体と相互に作用を与え合う外界」のことと、とらえることができる。フィールドワークや授業の中で道徳的価値を表現する活動なども交えながら、生命とその環境をどのように守っていくのかは一人ひとりの生き方に関する問題ではあるが、社会や地球全体の問題として今を生きるわれわれが解決すべき問題であることをしっかりと認識させることを通して、環境を保全していくことが生命を守っていくことにつながるということに道徳学習の中で気づいてほしい。

寸評（山下）：道徳では、「自然や崇高なものとのかかわり」が重要な内容として取り上げられている。また、最近では「体験的道徳教育」といったあり方も重視されるようになってきている。森林環境教育は、「自然の偉大さを知る」「自然環境を大切に」「自他の生命を尊重する」「うつくしいものに感動する心をもつ」（以上、第5学年及び第6学年）という道徳の内容を達成するうえでも、大きな役割が果たせるのではないだろうか。

\*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）